

学校名	福島県南会津郡只見町立朝日小学校
授業者	本名 亜沙美

1. 単元計画

1-1. 単元名

生きもの なかよし 大作せん

1-2. 学年

第2学年

1-3. 教科

生活科

1-4. 単元の概要

本単元は、小学校学習指導要領解説生活編（7）「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする」を受け、児童一人一人が生き物と触れ合う活動を中心に設定したものである。生き物と関わることで、生き物も自分と同じように生命をもって生きていることに気付き、よりよい飼育環境を考えながら飼育を続けることで生き物に対する責任感を養うことができる。また、生き物を育てていく上で疑問に思ったことを友達に相談したり、地域の人に聞いたりする活動を通してコミュニケーションの経験を積み、生き物について伝えたい対象を意識して作品をまとめ発表することでプレゼンテーション力を高めることができる単元である。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

○単元のねらい

自分が飼育してきた生き物のことを振り返り、作品にまとめる中で、生き物のことを考えて世話ができるようになった自分自身の成長に気付くとともに、生き物がたくさんいる地域に愛着をもつことができるようにする。

○単元設定の理由

（1）児童観

男子4名、女子2名、計6名の学級である。非常に元気が良く、授業に対しても意欲的で、毎時間の活動をととても楽しみにしている。ミニトマトを育てる活動では、毎朝の水やりを欠かさず、愛着をもって生長を見守っている。好きな活動に対しては一生懸命な反面、集中できる時間が短い児童がおり、自分の思いを伝えたいという気持ちは強いが、友達の話最後まで聞くことができないことも少なくない。また、書くことに対して苦手意識がある児童が数名おり、観察カードなどを書く活動では配慮が必要である。生き物に関しては、1年生活科「いきものと なかよし」の単元で、バッタやカマキリ、コオロギなどを飼育する活動を行った。事前のアンケートでは、特定の昆虫を苦手とする児童が数名いたが、生き物を育てることに対しては前向きで、「生き物を育てたいか？」という質問には全員が「育てたい」と答えていた。

(2) 指導観

本単元では、ビオトープ（学校近くのため池）や学校周辺で生き物探しをるところからスタートする。その中から、自分が育てたい生き物を選ぶことで愛着をもち、責任をもって育てていこうとする意欲をもてるようにする。また、たくさんの生き物と出会うことで、只見には生き物がたくさんいるということを実感できるようにし、そこから地域への愛着心へとつなげていきたい。

飼育活動は随時行うものなので、気付いたことを写真やメモなど簡単な方法で残せるような環境を整え、作品をまとめる際の資料にできるようにする。また、作品にも写真等を活用し、文字を書くことを苦手とする児童にとって負担にならないよう配慮する。

本時では、相手意識をもって発表できるように1年生や上級生、生き物探しでお世話になった方々を招待し、生き物を育てて分かったことや成長の様子などを伝えていく。作品をまとめる時から伝える相手をしっかり意識し、伝わりやすい内容や表現について考えることで、自分の伝えたいことがしっかり伝えられるようにしていきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

ア 身の回りの生き物に関心をもち、生き物を探しに行く計画を立てようとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

イ 身近な地域に出かけて、安全に留意しながら、生き物を採集しようとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

ウ 本で調べたり、生き物名人に教わったり、友達と相談したりして考えながら、工夫して生き物を採集している。（思考力、判断力、表現力等の基礎）

エ 生き物の世話の仕方について、調べたり相談したりしながら考え、それぞれの生き物に合わせて、工夫して世話をしている。（思考力、判断力、表現力等の基礎）

オ 生き物の動きや形状などの特徴、変化や成長の様子に気付くとともに、生き物は生命をもっていることに気付いている。（知識及び技能の基礎）

カ 生き物の成長の様子について、招待した人に説明する内容をまとめている。

（知識及び技能の基礎） <言語スキル>


キ 生き物の成長の様子について、分かりやすく伝えている。

（知識及び技能の基礎） <プレゼンテーション力>

ク これまでの飼育活動を振り返り、生き物のことを考えて、継続的に飼育することができるようになった自分たちの成長に気付き、生き物がたくさんいる地域に愛着をもっている。

（知識及び技能の基礎） <メタ認知力>

1-7. 単元の展開 (全12時間)

次	時	学習活動・主な内容	教師の指導／主な評価 外部連携／使用教材等
生きものをさがしに行こう	1	<p>○ 生きものはどこにいるのかな？ (1)</p> 	<p>ア 身の回りの生き物に関心を持ち、生き物を探しに行く計画を立てようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)</p>
生きものをとりに行こう	2 3 4 5	<p>○ ビオトープで水辺の生き物を探そう。(2)</p>  <p>○ 育てたい生き物を捕まえよう。(2)</p>	<p>イ 身近な地域に出かけて、安全に留意しながら、生き物を採集しようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)</p> <p>ウ 本で調べたり、生き物名人に教わったり、友達と相談したりして考えながら、工夫して生き物を採集している。 (思考力、判断力、表現力等の基礎)</p>
生きものをそだてよう	6 7 (常時)	<p>○ 生き物の育て方を調べよう。(1)</p>  <p>○ 生き物が暮らしやすいすみかを作ろう。(1)</p>	<p>エ 生き物の世話の仕方について、調べたり相談したりしながら考え、それぞれの生き物に合わせて、工夫して世話をしている。 (思考力、判断力、表現力等の基礎)</p> <p>オ 生き物の動きや形状などの特徴、変化や成長の様子に気付くとともに、生き物は生命をもっていることに気付いている。 (知識及び技能の基礎)</p> 
生きもののお話をしよう	8 9 10 11 12	<p>○ 生き物のことを伝える準備をしよう。(3)</p> <p>○ 1年生を招待し、なかよくなった生き物のことを伝えよう。(本時1/1)</p> <p>○ 学習のまとめをしよう。(1)</p>	<p>カ 生き物の成長の様子について、招待した人に説明する内容をまとめている。 (知識及び技能の基礎) <言語スキル></p> <p>キ 生き物の成長の様子について、分かりやすく伝えている。(知識及び技能の基礎)</p> <p><プレゼンテーション力></p> <p>ク これまでの飼育活動を振り返り、生き物のことを考えて、継続的に飼育することができるようになった自分たちの成長に気付き、生き物がたくさんいる地域に愛着をもっている。 (知識及び技能の基礎) <メタ認知力></p>

2. 学習活動の実際


2-1. 単元における位置づけ

単元 1 2 時間中の 1 1 時間目

2-2. 本時の目標

相手に合った発表の仕方、なかよくなった生き物について分かりやすく伝えることができる。
 (知識及び技能の基礎) <プレゼンテーション力>

2-3. 本時の展開

主な学習活動／反応	教師の指導・支援／評価の視点（方法）
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>なかよくなった生きものを しょうかいしよう。</p> </div> <p>2 なかよくなった生き物のことを伝える。</p> <p>【生き物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤゴ ・オタマジャクシ ・ドジョウ ・バッタ <p>【説明する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕まえた場所 ・餌 ・変化, 成長の様子 ・育て方の工夫 ・すみかの工夫 ・生き物のすごいところ 	<p>※ 伝えたいことが伝わるようにするためにはどのようなことに気を付ければ良いか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聞く人のポイントや約束について確認する。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりブースを作り、聞く人がブースを移動するようにする。 ○ 発表を聞き終わったら、上学年には付箋に感想を書いてもらうようにする。 ○ 発表が終わったら、聞く人が質問したり感想を話したりできるよう、声をかける。



<p>3 本時の活動を振り返る。</p>	<p>◇ 生き物について分かったことや成長の様子について、分かりやすく伝えることができたか。(観察) <プレゼンテーション力></p> <p>○ 伝えなかったことが伝えられたかについて振り返る。</p>
----------------------	---

3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表するときのポイントを確認したことは、児童に視点をもたせることにつながり、良かった。 ○ 伝えるときのポイントを子供たちと考え、短い言葉で分かりやすく可視化したことは、発表前のスムーズなポイントの確認につながった。 ○ 「ぼくのおたまじゃくし」等の表現から、愛着をもって意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきた。 ○ 生き物を大切にすることで、生き物がいる地域への愛着心を育てることができた。
--

4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ● 場の設定の工夫によって、さらに意欲を高める場の設定の工夫が必要であった。 ● ICTの活用について検討していきたい。 ● 振り返りを十分確保し、感想を伝え合う時間が必要であった。 ● 発表の練習をする際に、ビデオ等を活用するなど、客観的に自分達の様子を振り返る工夫が必要であった。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> ○ 水中生物が多くいるポイントに足を運び、多くの生物と出会う機会を設定したこと。 ○ 愛着をもって接することができるよう、飼育する時間を十分に確保したこと。
